

年に1度 全職員が参加して学術集会を開催しています。

本年度も10月22日に開催され全5チームの研究発表が行われました。

- ①連携室 『コロナ禍における退院支援』
- ②老健 『介護職教育委員会～よりよい介護を目指して～』
- ③外来看護 『新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策』
- ④栄養科 『八十八夜、新茶のおもてなし』
- ⑤病棟看護 『離床センサーフローチャートの作成と使用基準統一へ』

その中より⑤の離床センサー(床／肩)の運用に関する内容を抜粋してご紹介します。

## はじめに

- 我が国の2020年高齢化率は28.4%であり、別府市は31.8%である。
- 認知症高齢者ケアにおいて、そのらしさを尊重したケアの重要性が述べられている。
- 当院の入院患者の平均年齢は、84歳以上であり超高齢化の現状である。インシデントレポートの2割が転倒・転落であり、今年度発生したアクシデント報告2件が転倒による骨折事例であった。転倒を予防できる離床センサーは有用であり、近年多く導入している。
- 今回、離床センサーの使用基準・種類の選択ができるフローチャートを作成し、運用した結果をここに報告する。

## 離床センサーの種類

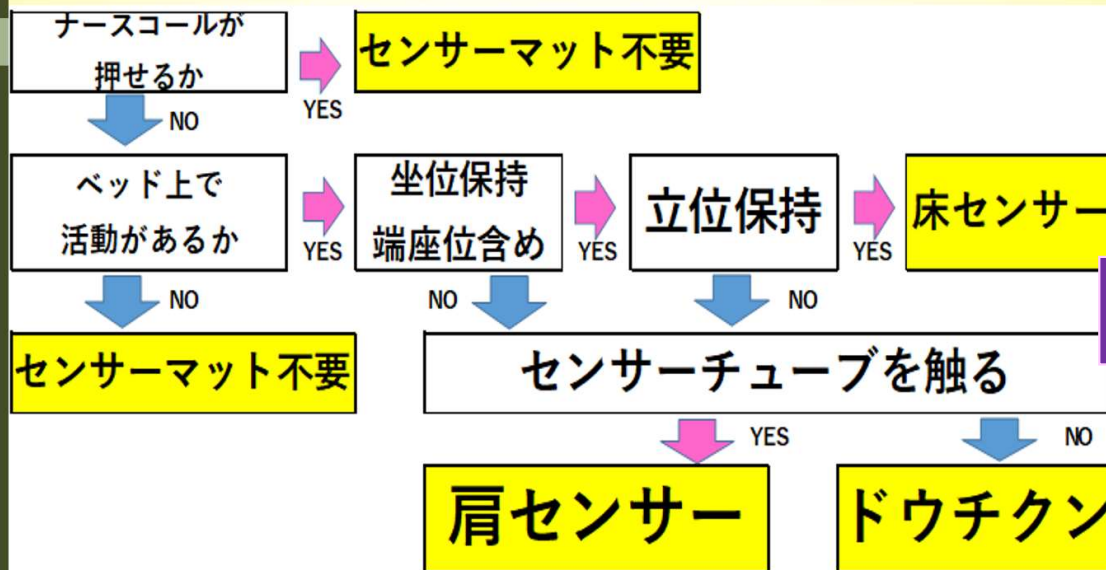
### a.床センサー



### b.肩センサー



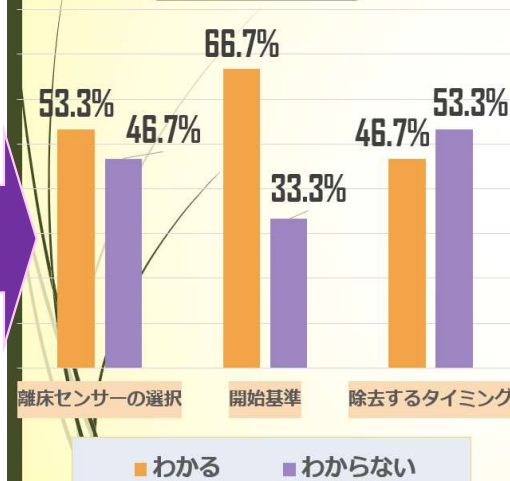
## 離床センサーフローチャート



## 結果4

## アンケート比較

### 作成前



### 作成後

